



問

遅れている町道整備、どうする？

答

緊急性を重視、計画的な整備を進める



一校区別内訳は、大溝校区35件、木佐木校区28件、大莞校区14件となっており、ほぼ各校区の行政区数に比例した割合となっている。

道路整備については、工事要望書を提出していただき、職員が現地を調査し、整備の緊急性等を確認・記録し、軽微な舗装補修や砂利散布等は速やかに実施している。

実施の進捗は、平成22年度から26年度までの5年間については要望件数97件、完了した件数77件である。

建設水道課長

**問** 道路補修等の地区からの要望について  
 ①区長等の要望等を町は記録しているか  
 ②要望に対する実施の進捗は、町全体でどうなっているか。また、校区別では

問

道路整備の要望は、大部分が口頭によるものと考えているがその扱いについて説明願いたい。

建設水道課長

口頭による要望については、要望書に記入してもらおう。また、窓口以外の場合でも区長等からの要望はメモを残し、職員に周知し現地確認を行っている。



土羽の泥濘化による舗装の崩壊

問

道路法面の設計について、現在、道路の補修が必要な箇所が殆どが法面の崩壊によるもので、その原因は除草剤散布による、土羽の泥濘化ではないかと考える。

建設水道課長

法面の構造については、以前からコンクリート擁壁による工法も検討してきたが、多額の費用が必要となるため、より多くの要望に善処することを基本に整備を進めているところである。

この様なことから、道路法面の構造については、原則として土羽によるものとした。

なお、今後農業従事者の高齢化が進み、個人での法面の管理がさらに困難になることが推測されるが、道路は町民誰もが利用することから、現在産業振興課が進めている多面的機能支払い交付金事業などを活用した地域協働の取り組みを推進することが今後の課題と認識している。

意見

道路等のインフラの整備は、今後の農業の発展には欠かせない事柄であり、水路の整備と合わせ予算の確保並びに早期に整備を進めていただきたい。



コンクリート擁壁構造